

# SALAMANCA HALL

サラマンカホール

<http://salamanca.gifu-fureai.jp>





# Salamanca Hall サラマンカホール

サラマンカホールは、本格的なパイプオルガンを備えたクラシック音楽専用のコンサートホールとして平成6年4月にオープンしました。

クラシックの演奏に最も優れているとされるシーボックス型のホールは、ルネッサンス

様式の造形をモチーフにしてデザインされ、内装はナラ材を多く使い、温かみのある重厚感を演出しています。

## 名前の由来

岐阜県とスペイン・サラマンカ市との交流は、「鳴らすのオルガン」と呼ばれていたサラマンカ大聖堂のルネッサンス様式のパイプオルガンを岐阜県白川町に工房を構えていたオルガン建造家辻宏氏が修復し、これに岐阜県が協力したことから始まりました。

サラマンカホールのシンボルとも言えるパイプオルガンは、サラマンカ大聖堂のオルガンの見事な複製で日本初のスペイン様式オルガンと言えます。

そのような交流が進む中、ホールの愛称を全国公募した結果、最も多かったのが「サラマンカホール」という名称でした。

## 音響へのこだわり

サラマンカホールを訪れる多くのアーティストが、先ず、その音響の素晴らしさを称えます。そして、お客様には、素敵な音楽に包かれているような幸福なひとときをご提供する素晴らしい音響がサラマンカホールの自慢です。クラシックに最適とされるシーボックス型のホールで、残響時間は1.7~1.9秒と理想的です。天井、側壁等の主要な反射面は特に高音域の音（ヴァイオリン等）が拡散するように適度な凹凸がつけてあり、響きを抑えたいのために残響調整カーテンを設置しています。また、舞台の両袖の壁面には、演奏者の好みに応じて使用が可能な吸音壁を設置するなど、質の高い音響が確保されています。

## ホールの概要

客席数	708席(パルコニー席106席)
ホール寸法	最大間口21.0m 最大天井高16.0m 最大奥行36.7m
舞台寸法	間口18.3m 奥行9.7m
音響特徴	室内騒音 NC15~17 残響時間 満席時1.7から~1.9秒 空席時2.1秒(残響調整カーテンにより、残響を0.1秒抑えることができます。)



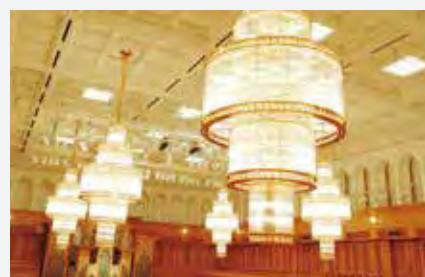
## パイプオルガン

北ドイツ・バロック様式に、わが国で初めての完全なスペイン様式を独創的に組み込んだコンサートオルガンで、スペインのサラマンカ大聖堂のオルガンを修復したことで知られる辻宏氏の最大傑作。ルネサンス期の建造法にこだわって製作されています。



## 石造レリーフ

ホールのホワイエを飾る3体の石造レリーフは、サラマンカ大学とサラマンカ大聖堂の正面入口のファサードを模したもので、サラマンカの伝統と技を伝えるデザイナーがアレンジし、石材も現地のビジャマジョール石を使い、8人の石の匠が3年の年月をかけて彫り上げたものです。



## シャンデリア

天井のシャンデリアは、全長6.7m、直径2m、重量650kgと大きなもので、世界的な照明デザイナーの石井幹子さんが、伝統的工芸品の「岐阜提灯」をイメージしてデザインされたものです。



# Pipe Organ パイプオルガン

サラマンカホールのシンボルとも言うべきパイプオルガンは、北ドイツ・バロック様式にスペイン様式を独創的に組み込んだものです。このスペイン様式のパイプオルガンは、スペイン・サラマンカ市のサラマンカ大聖堂にあるルネッサンスオルガンの複製で、わが国初の完全なスペイン様式です。1558年、サラマンカ大聖堂に建造されたパイプオルガンは、長年の歳月による傷みが激しく、一部の音しか鳴らな

い状態でした。しかし、岐阜県をはじめ、日本の有志の皆さんの支援と現地の人々の協力を得て、岐阜県白川町に工房を構えていたオルガン建造家辻宏氏が「天使の歌声」とよばれる音色を蘇らせました。この国境を越えた人々の情熱が岐阜県とサラマンカ市の交流につながり、サラマンカホールに日本初の完全なスペイン様式のオルガンが辻宏氏の手によって新たに構想され、誕生しました。



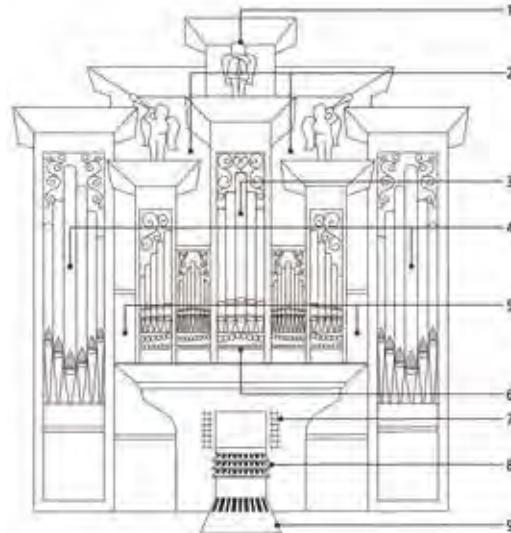
## 天使像

オルガンの上部に設置してある3体の天使像は、サラマンカ出身の画家アンヘル・ポヴェータ夫妻、サラマンカのトマス・リイス・デ・ヴィクトリア合唱団、白川町ピストニア友好協会、白川町婦人有志、その他の方々により寄贈されたもので、スペイン・サラマンカ大聖堂のオルガンに飾られている天使像を参考にして、櫻の木を使用し、スペインの「オレフード工房」で製作されたものです。

## オルガンの概要

大きさ	高さ10.5m 幅8.4m
パイプの大きさ	大:H5m×φ22cm 小:H1cm×φ5mm
音域	最高:8,000Hz 最低:33Hz
パイプの本数	2,997本
ストップ数	45
演奏台	メカニカルキー/アクション メカニカルストップ/アクション
(3段)手鍵盤、足鍵盤	第Ⅰ手鍵盤 SWELL ORGAN C-a''' 58鍵 第Ⅱ手鍵盤 GREAT ORGAN C-a''' 58鍵 第Ⅲ手鍵盤 SOLO ORGAN C-f''' 54鍵 ペダル鍵盤 PEDAL ORGAN C-f' 30鍵
設計・整音	辻オルガン・辻宏
制作	辻オルガン
完成	1994年3月

## パイプオルガンの構造



- 1 天使の像(3体)
  - 2 グレートオルガン
  - 3 ソロオルガン
  - 4 ヘダルオルガン
  - 5 スエルオルガン
  - 6 トランペット
  - 7 ストップノブ(音栓)
  - 8 手鍵盤(3段)
  - 9 足鍵盤(ペダル)
  - 10 金属性パイプ(笛)
  - 11 木製パイプ(笛)
  - 12 パイプの立つ穴
  - 13 風箱(小部屋)
  - 14 バレット(弁)
  - 15 鍵盤
  - 16 ふいご
  - 17 ダクト
- 全部に突き出しているパイプ群で、スペイン特有のものです。  
60個あり、操作によってさまざまな音色が出ます。
- グレート鍵盤・ソロ鍵盤・スエル鍵盤があります。
- オルガンの両側にある巨大なパイプを鳴らします。
- 材料は、錫、鉛あるいはそれらの合金が使われ、配合によって音色が左右される最も重要な部分です。
- 材料は、松・楓等いろいろな木が使われます。
- この穴の上に全パイプが立ちます。
- 各音によって無数の小部屋にわかれます。
- 鍵盤を押すと弁が開き、風を送ってその上に載っている笛だけを鳴らします。
- 階段状に3段に重ねられ、それぞれの鍵盤数は上段から54・58・58鍵あります。足鍵盤は30鍵あります。
- 昔は手や足でふいごをこいでいましたが、今はだいたいモーターを使って風を起こしています。その風をふいごに貯めて、そこで一定の圧力に整えてからダクト(17)を通って風箱に送ります。



# Stone Reliefs 石造レリーフ

岐阜県とスペイン・サラマンカ市との交流は、「鳴らすのオルガン」と呼ばれていたサラマンカ大聖堂のパイプオルガンを岐阜県白川町に工房を構えていたオルガン建造家辻宏氏が修復し、これに岐阜県が協力したことから始まりました。この交流をもとに、「サラマンカホール」という名称がつけられ、ホールのシンボルとしてサラマンカ大聖堂のオルガンを見事に複製したパイプオルガンが設置

されました。そして、ホールの正面を飾ることになったのが三体の石造レリーフです。モチーフとなったサラマンカ大学とサラマンカ大聖堂の正面入口の石彫りは、銀細工のように華麗で繊細なプラテレスコ様式の代表作です。石材も現地のビジャマジョール石を使い、当ホールの正面を華やかに彩っています。

## 石造レリーフ概要

項目	サラマンカ大学(1体)の摸刻	サラマンカ大聖堂(2体)の摸刻
大きさ	高さ 8.07m 幅 5.00m	高さ 5.94m 幅 4.02m
重さ	約20t	約20t(1体約10t×2体)
使用ピース	354個	132個(1体66個×2体)
縮尺(対オリジナル)	1:2.43	高さ 1:2.80 幅 1:2.45
材質	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナルのレリーフと同じ石材を使用</li> <li>「ビジャマジョール石」と呼ばれる砂岩性の石</li> <li>サラマンカ市の隣村「ビジャマジョール村」の露天掘り</li> <li>古くからサラマンカ市の建築に使われ、現在でも、ほとんどの建築物の外壁などに用いられている。</li> <li>掘り出した時は柔らかいため彫刻を施しやすいが、乾燥し、酸化すると堅固なものとなって、耐久性が出てくる。</li> </ul>	
製作期間	3年 (スペインでの製作期間) 平成6年度～8年度	
工事期間	6ヶ月 (日本での工事期間) 平成9年9月12日～10年3月10日 (輸送期間28日間) 平成9年11月6日～12月3日	
設計者	フランシスコ・ガルシア・ゴメス サラマンカ在住の建築設計士	
製作所	ビジャマジョール村に工場を持つ石材加工業 サンジョン・ディエゴ社	



## サラマンカ大聖堂

サラマンカ大聖堂は、13世紀と18世紀に完成した新旧二つの大聖堂からなり、ひときわ高い新大聖堂の2つの尖塔は、サラマンカ市の象徴です。建物は、長い歳月をかけて石だけで作られており、完成までに旧大聖堂は約100年、新大聖堂は約200年を費やしています。



## サラマンカ大学

ポロニーヤ、パリ、オックスフォードと並ぶ世界最古の大学で13世紀に開学され、長きに渡り知性の殿堂としての伝統を守り続けています。かのコロンブスもインド航海路についてこの大学の先生に相談したと言われています。

## サラマンカ市

サラマンカ市は、マドリッドから北西へ約200km、イベリア半島西部の高原地帯に位置するカスティーリャ・イ・レオン州サラマンカ県の県都で、サラマンカ大学をはじめ、市内に2つの大学を有する学園都市です。

街の起源は、紀元前217年にさかのぼり、16世紀に最盛期を迎ますが、ユネスコ世

界文化遺産に登録されている旧市街には、その頃の歴史的建造物が数多く見られ、小ローマと呼ばれています。また、街の中をトルメス川が流れ、清流長良川を有する岐阜の姿と重なるところがあります。



サラマンカホール

# SALAMANCA HALL

〒500-8384 岐阜県岐阜市薮田南5丁目14番53号 TEL:058-277-1113 FAX:058-277-1119